

円)、営業利益178億円(同144億円)をそれぞれ目指す。13-14年度のグループ経営計画を策定。酒類、不動産に統廃し食品、飲料を3本目の経営の柱に育成、北米・東南アジア中心に海外事業を拡充する。

億円から464億円、食品・飲料は1290億円から1455億円にそれぞれ引き上げる。国内酒類はビール類の販促をエビス、黒ラベル、麦とホップの3ブランドに集中させるほか、ノンアルコールビールや低アルコール

拡販。ポッカグループとの統合効果を増すため物流業務と調達業務での集約化を進める。  
12年12月期連結決算は営業用販促費の増加が響いて営業減益。売上高は前期比9.6%増の4924億円、営業利益が同

連会社の店舗を含め計4店を埼玉県春日部市内に出店している。平均年齢60歳以上と高齢者を積極的に雇用しているのが特徴。2011年には法政大学などによる第1回「日本でいちばん大切にしたい

おづつみ

ほうじ茶、埼玉名物に  
社長は強調。茶摘み教える。現在売り出し中なのが、やわらかい茎だけを選別して製造するほうじ茶「さきたま棒茶」。埼玉名物にしたいと意気込む。3月には18年ぶりに新店を

▽社長 尾堤宏氏▽本社 埼玉県春日部市粕壁2の1の1、048・752・6610▽資本金 1500万円▽売上高 約3億4000万円(12年1月期)▽従業員 13人▽設立 68年(昭43)6月

オンの専門店には雑貨、手芸と雑貨、ペット関連商品、自販車の四つ専門店がモール専門店街に出店、酒と輸入雑貨、花と園芸、靴、リフォームなど六つの専門店がGMSの「フイオンつくば店」に入る。

カカオ豆、ガーナ依存脱却

世界のカカオ豆産出国はコートジボワール、ガーナ、インドネシア、ナイジェリアなどさまざま。しかし日本ではガーナからの輸入が、9割以上と突出している。こうした中、「アジアでカカオ豆の需要が増加し、日本に将来、高品質の豆が入らなくなるのではないかと危機感を大半の業者が抱く」(角直樹明治フードクリエイト商品部長)との声も上がる。

海外は購入先多数

カカオ豆はチョコレートからアイスクリーム、ココア飲料、洋菓子、菓子パンなどさまざまな分野で使われる。海外の菓子大手はカカオ豆をガーナのほかにコートジボ

輸入業者 ジェトロ リスク回避に調達多様化

ワールやインドネシア、ブラシル、エクアドルなど多くの国から調達している。日本ではガーナの比率が

高まった理由について明治の角部長は、政府が豆の品質をしっかりと管理しており、安定性が高いことを挙げる。輸出が盛

とはいえ、輸入をガーナ1国に依存していることは政治や為替変動をはじめ、リスクが大きい。「カビや嫌な味の原因と

んなため農園には実が多くなり若い木が植えられ、港湾倉庫も整っている。ガーナで豆輸出に携わる世界銀行コンサルタントのクワヘナ・オヘメ・ティヤセ氏は「ガーナは輸出国として消費者の好みをききと分析し、それに合った豆を輸出している」と強調する。

区)は日本貿易振興機構(JETRO)の開発輸入企画実証事業の一環で、ガーナに近いシエラレオネで日本向けカカオ豆輸出のプロシエクトを2年前に始めた。農園に老木が多く実つきが悪いことや道路状態が悪いなどの難点はあるが、カカオ豆の品質自体は良いと

味のより反映  
「最近では洋菓子業界で生チョコフォームが起り、1個300円や500円といった高価なチョコを消費者が食べる機会も多くなった。生チョコはカカオ豆の味が、ミルクチョコより反映されやすいという。多様な味を求める消費者の声で、カカオ豆の調達多様化を促す可能性もありそうだ。」



ジェトロは、シエラレオネのカカオ豆を紹介するセミナーを開いた